

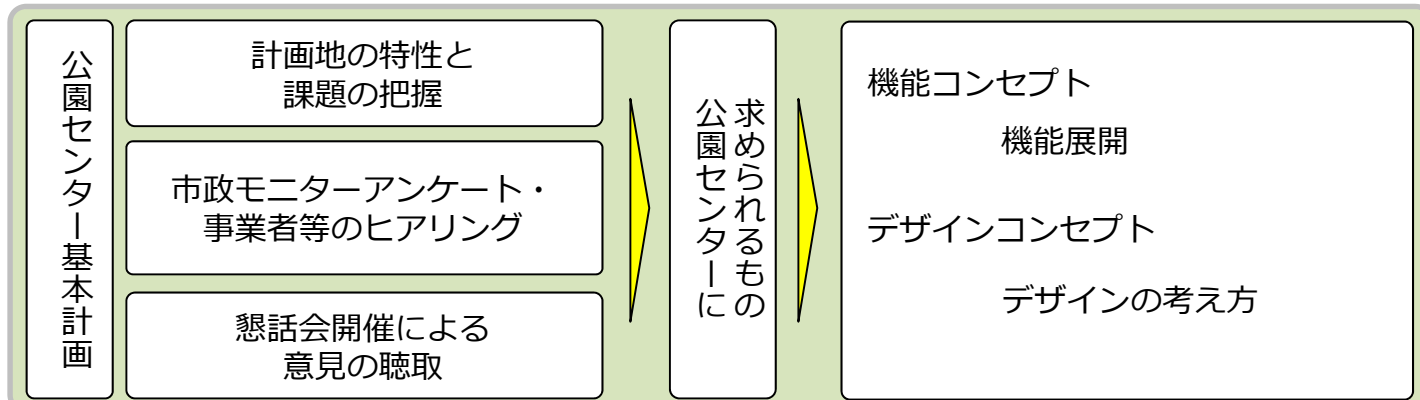
1 計画の目的

青葉山公園（仮称）公園センター（以下、公園センターと表記）については、「青葉山公園整備基本計画（平成25年3月）」により、基本コンセプトが示され、「ビジターセンターとしての機能をベースとしつつ、青葉山公園の玄関口という立地特性や藩政時代からの歴史性を踏まえた仙台の歴史・文化を発信する場」として位置づけられている。この基本コンセプトをもとに、公園センターを、青葉山公園の魅力をもっと高める施設としていくため、公園センターに求められる機能や施設の整備に関するデザインの考え方などを検討し、基本計画を策定するものである。

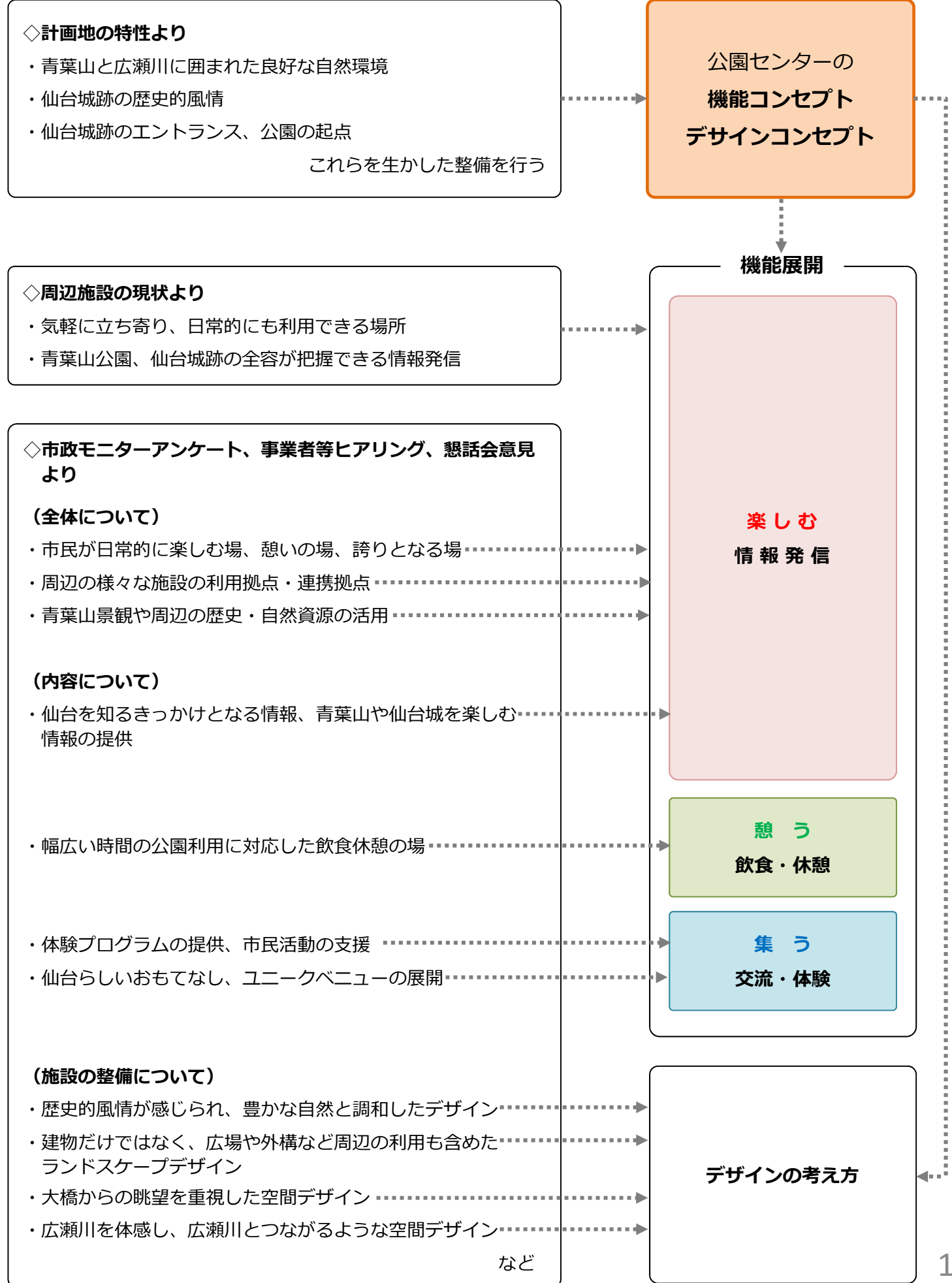


2 本計画の位置付けと検討内容

青葉山公園整備基本計画	基本目標	藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことができる杜の都のシンボルとなる公園として整備する
	計画のテーマ（将来像）	仙台の誇りを育み 心に染み入る歴史と自然の景域づくり
	公園センターの基本コンセプト	青葉山公園、仙台城方面への玄関口にふさわしい、来訪者に向けた「杜の都・仙台の歴史文化の発信」



3 公園センターに求められるもの



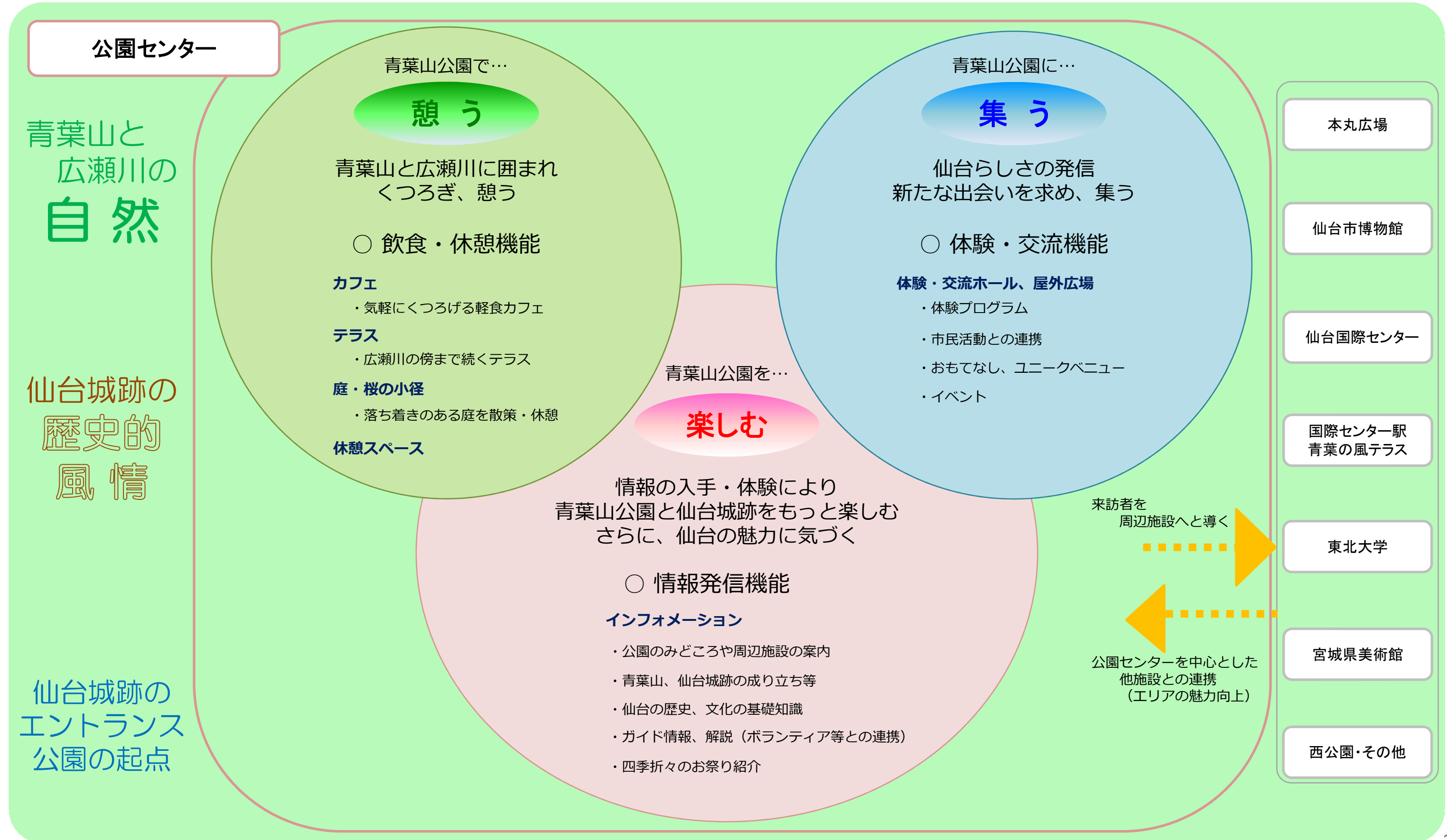
4 機能について

(1) 機能コンセプト

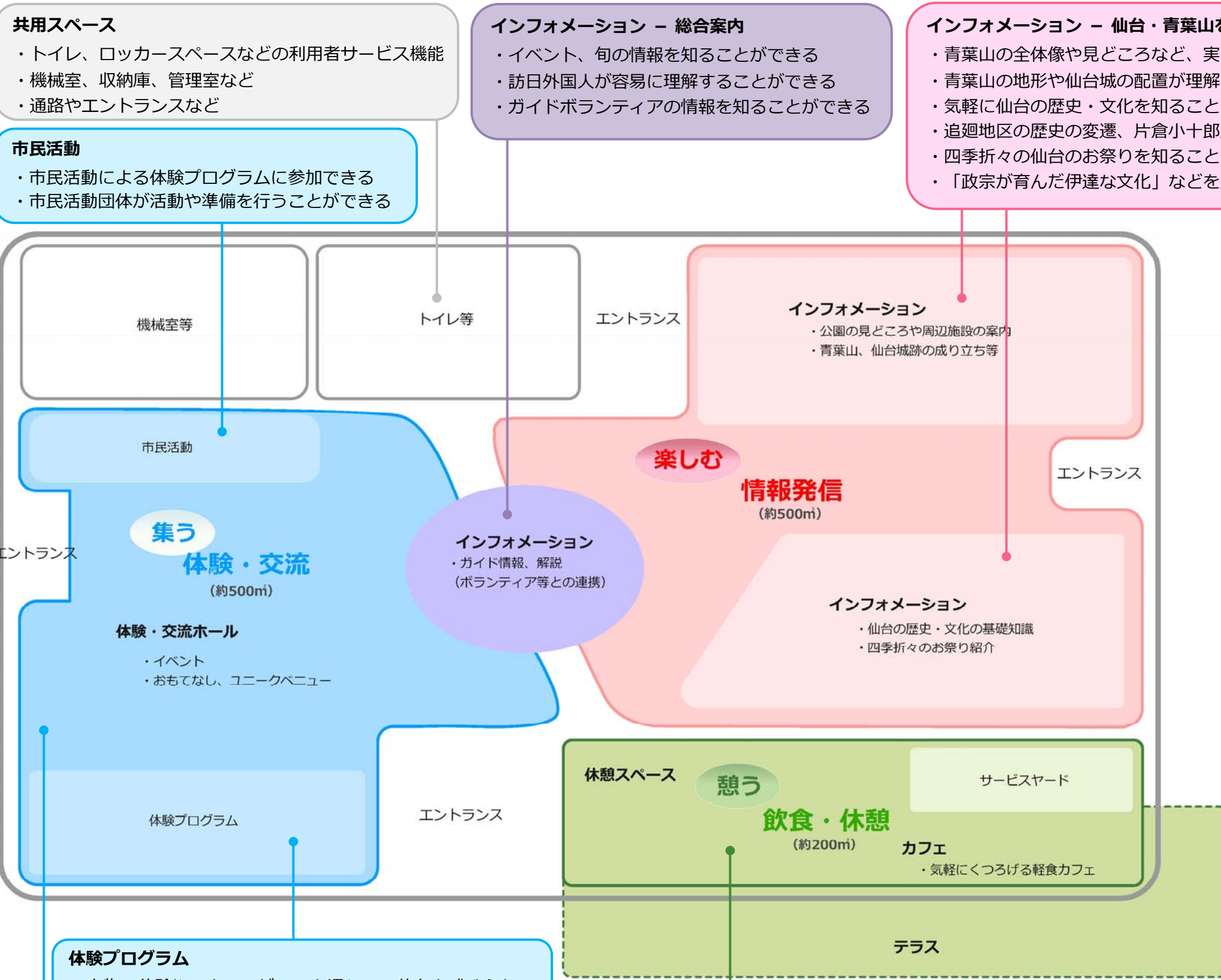
～ここからはじまる仙台・青葉山の魅力発見～

仙台城跡の歴史的風情と豊かな自然が織りなす青葉山公園のエントランス

(2) 機能展開



○ 機能構成図（屋内）（機能の割合を模式的に表すもの）



共用スペース

- ・トイレ、ロッカースペースなどの利用者サービス機能
- ・機械室、収納庫、管理室など
- ・通路やエントランスなど

市民活動

- ・市民活動による体験プログラムに参加できる
- ・市民活動団体が活動や準備を行うことができる

インフォメーション - 総合案内

- ・イベント、旬の情報を知ることができる
- ・訪日外国人が容易に理解することができる
- ・ガイドボランティアの情報を知ることができる

インフォメーション - 仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報の提供

- ・青葉山の全体像や見どころなど、実際に出かけて見に行くきっかけとなる
- ・青葉山の地形や仙台城の配置が理解できる
- ・気軽に仙台の歴史・文化を知ることができ、市民も仙台を再発見できる
- ・追廻地区の歴史の変遷、片倉小十郎屋敷跡の情報を知ることができる
- ・四季折々の仙台のお祭りを知ることができる
- ・「政宗が育んだ伊達な文化」などを知ることができる



■ 屋内面積表

機能		面積
憩う	飲食・休憩	カフェ・テラス・休憩スペース
		約200㎡
楽しむ	情報発信	インフォメーション
		公園の見どころ、周辺施設の案内
		青葉山、仙台城の成り立ち等
		ガイド情報、解説
		仙台の歴史、文化の基礎知識
		約500㎡
集う	体験・交流	体験・交流ホール
		市民活動
		体験プログラム
		約500㎡
共用	利用者サービス	トイレ、コインロッカー等
	管理	機械室、収納庫、管理室等
	共用	エントランス、通路
		約1000~1300㎡
合計		約2200~2500㎡

体験プログラム

- ・本物の体験やアクティビティを通して、仙台を感じられる
- ・市民も観光客も一緒に楽しむことができる

体験・交流ホール

- ・仙台らしさが感じられる、特徴のあるおもてなしが得られる
- ・ユニークベニューなど様々なイベントや活動に利用できる

カフェ・テラス・休憩スペース

- ・早朝や夜間など幅広い時間帯で、公園利用者が立ち寄れる
- ・仙台ならではの特色のある雰囲気を楽しむことができる
- ・日常的に立ち寄りやすく、休憩ができる
- ・屋外と一体的な広々とした場所で、自然を感じつつ過ごすことができる

○ 機能構成図（屋外） （機能の割合を模式的に表すもの）



憩う

庭

- 和風の落ち着いた雰囲気の中でくつろげる
- 植栽により青葉山の風景と連続させる

庭のイメージ

集う

広場

- 来訪者を最初に迎える
- イベントの開催により出会い・交流が生まれる

例) 大塚公園 例) 噴火湾パノラマパーク

集う

中央広場

- 青葉山の特徴を生かしたイベントを開催できる
- 屋内空間と連携して、体験プログラムを開催できる

活動のイメージ

憩う

中央広場

- 広々とした空間の中で、ゆったりと自然を感じながらくつろげる

例) 七北田公園

憩う

桜の小径

- 桜並木とともに広瀬川沿いの景観を楽しみながら散策できる
- 広瀬川につながり、身近に感じられる

桜の小径のイメージ

憩う

テラス

- 屋内のカフェや広場と一体感のあるオープンテラスでくつろげる

カフェテラスのイメージ

5 デザインについて

(1) デザインコンセプト (整備において、将来目指すべき姿を表すもの)

～青葉山の自然と仙台のまちにとけこむ、歴史・文化漂うたたずまい～

目の前に広がる青葉山の豊かな自然、見下ろせば広瀬川の清らかな流れ、
この地で培われてきた歴史・文化の薫り漂う風景を杜の都の誇りとして後世につなぐ

(2) デザインの基本的な考え方

空間デザインの考え方

- ① 培われてきた歴史・文化を感じさせる空間

施設デザインの考え方

- ① 青葉山のエントランスとして印象づけるデザイン
- ② “仙台らしさ”を後世につなげるデザイン
- ③ 草花や植栽を通し“仙台の四季”を感じるデザイン
- ④ 大橋から見える遠景、近景、建物の質感などランドスケープを意識したデザイン
- ⑤ 埋蔵文化財に配慮した史跡の隣接地にふさわしいデザイン

空間デザインの考え方

- ⑤ 公園センターの機能が十分に発揮できる空間

空間デザインの考え方

- ② まち、広瀬川、青葉山の連続した風景に溶け込む空間

空間デザインの考え方

- ④ 広瀬川とつながる広々としたゆとりのある空間

空間デザインの考え方

- ③ 人々が寄り添いくつろぎとにぎわいのある空間

公園センター地区

6 事業の推進について

公園センターは、杜の都のシンボルとなる公園を目指す青葉山公園のメイン施設であり、市民の関心が高く、期待の大きい事業であることから、初期の段階から市及び民間が一体となり、協働でつくり上げていく必要があります。事業過程においては、多くの市民意見や要望に対応しながら進めていくことが重要である。



○ 事業手法と設計者の選定

・ 事業手法

【整備】

市が各段階において、直接設計や施工に関与できる「設計施工分離発注方式」を採用する。

【管理・運営】

多くの来訪者に気軽に利用していただくことを第一とし、収益性を高く求めない公園センターの特性を踏まえ、また、コンセプトを効果的、効率的に実現するため、民間等の「指定管理」により運営する。

・ 設計者の選定

公園センターについては、プロセスをオープンにしながら設計を行うために、プロポーザルにより、高度な技術力と創造性に富み、柔軟な対応力がある設計者を選定する。

○ 公園センターの運営

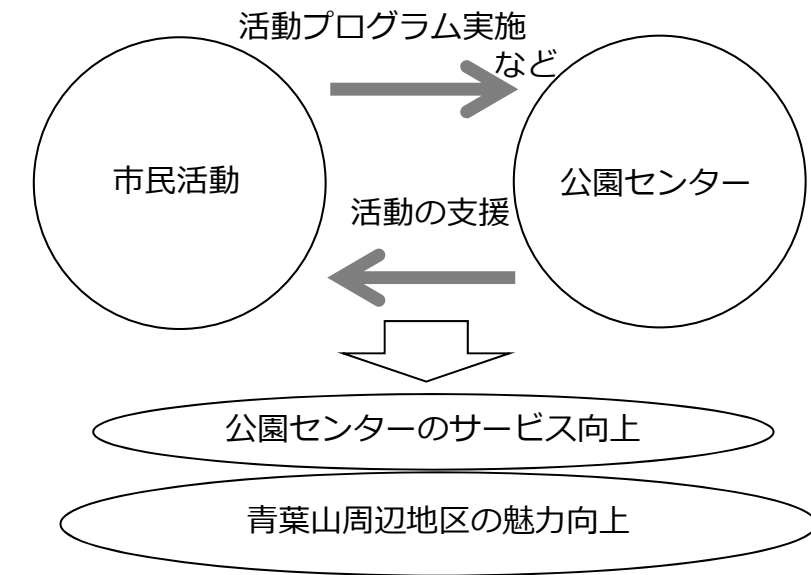
青葉山公園周辺には、仙台城跡、広瀬川等の豊かな自然、仙台市博物館などの文化施設があり、この場所をフィールドとして、歴史や自然ガイドなど市民活動団体、ボランティア、事業者による様々な活動が展開されている。

公園センターがこのような活動を活性化し、支援することによって、市民が青葉山の魅力づくりに関わりながら自らもより楽しむこと、創意工夫による特徴あるプログラムにより来訪者に青葉山の魅力を印象づけることが期待できる。

【具体的な取組みなど】

- ・ 青葉山周辺地区で活動する市民活動団体等を支援するため、活動準備スペースを設置
- ・ この場所で実施する活動及び提供する体験プログラムはどのようなものとするかを市民活動団体などと話し合いをしながらガイドラインやルールを決めるための仕組みづくり
- ・ 市民活動団体等が実施する活動及び体験プログラムについての情報発信

公園センター運営のイメージ



○ 指定管理者の役割

公園センターの運営は、主に指定管理者が行うことが考えられ、青葉山公園の魅力を向上させることを目的として、施設の維持管理にとどまらない役割が必要である。

【主な役割など】

- ・ 青葉山周辺地区の施設と開催されるイベントについて積極的に情報発信を行うこと
- ・ 公園センターを中心とした市民活動を支援すること
- ・ 青葉山公園の魅力向上に資するイベントを開催すること
- ・ 青葉山周辺地区の施設と連携した取組みを実施すること
- ・ 施設を適切に維持管理すること
- ・ 広場や体験・交流ホールの利用調整及び手続きを行うこと
- ・ 市民、行政、事業者、活動団体などが参加する運営協議会を、事務局として運営すること